

# 富士山と自然観察記録(俳句集- Ⅲ)

## *Mt. Fuji and Nature Observation, HAIKU Collection by 2018-2020*

岩崎行伸\*

2014年のMy Blogより、原則として日曜日を除く一日一句をblogに投稿することを決めているが、仲々継続することは難しい。日頃、自己満足と呆け防止とする趣味「富士山と自然観察記録をデジカメに収めた四季折々、その時の景観等の情報(生きものたち、野鳥・蝶・蜻蛉・昆虫の行動生態記録を俳句の枠内(5・7・5=17文字)に表現し収めることに大変苦慮した。

2018年から、今日までに略4000句を纏めたが、自己満足できるものは少ないが、これも呆け防止策と思えば前向きな考えであると自負している。

俳句の体制に整えるには、季語を入れる必要の何時の四季に詠んだかを明記することが大事のようである。

小生は、短い語句を用いて生きものたちの生態観察結果を詩句に残すことから、独自の判断で俳句として纏めたものであり、この辺を理解して頂ければ幸いである。

### 俳句集-Ⅲ(2018-春、yahoo blog)

- 第2718号(4/12):春うらら、霧の中の、富士の山
- 第2729号(4/25):新緑に、ツバメの飛来、何処の巣へ
- 第2730号(4/25):雨上がり、小川の川端に、カワトンボ
- 第2733号(4/30):鶯が、新緑の朝、鳴き響く
- 第2738号(5/6):新緑の、野生の藤の、美しいかな

2,018-夏

第 2769 号(6/11):梅雨の間に、富士のお山、素顔観る  
第2785号(6/29):朝早く、チュンチュンと鳴く、雀かな

### facebook 掲載

第2807(3/30):ポカポカと、富士の高峰は、霧の中  
第 2815(5/26):鶯鳴く、新緑の中、跳び回る  
第2816(5/26):春日和、ケ-ンケ-ン響く、雉の鳴き  
第2820(6/30):清流に、集う野鳥の、青と白  
第2821(6/30):清流に、集う大型、野鳥かな

### 2018年-秋

第2823(9/1):鶯鳴く、囀り響く、郷の森(地鳴き)

第2825(9/3):早朝から、背戸裏山で、蝉時雨  
第2850(9/22):猛暑去り、秋の訪れ、目には黄葉  
第2851(9/22):せど裏山に、虫の鳴き声、秋の詩  
第2880(10/21):登呂遺跡、古代の歴史、蘇る  
第2881(10/22):コウノトリ、餌を求めて、大旅行  
第2890(11/3):秋薫、色づく山に、四季の彩  
第2897(11/10):晩秋の、遊木の森に、アキアカネ  
第2908(11/10):久々の、富士の高峰に、白帽子  
第2921(11/24):秋深し、樹木の桜葉、風に舞う

### 2019年-冬

第 3001(2/26):何時の日か、駿河の空に、飛来乞う  
第3014(3/9):せど裏に、鶯の鳴き、春を呼ぶ

### 2019年-秋

第3240(11/16):秋半ば、紅葉の葉々、夕日映え  
第3241(11/16):秋深し、櫟の葉々が、風に散る  
第3252(12/26):秋半ば、生きものたちは、何想う

### 2020年-春

第3273(3/20):温暖化、梅も桜も、咲き始め  
第3281(3/28):春日和、染井吉野の、開花宣(静岡、3/8)  
第3322(5/9):何時の日か、染井吉野の、葉桜や

第3323(5/9):チュンチュンと鳴く, すずめかな

第3330(5/16):せど裏に、鶯の鳴き,新緑へ

## 特別号外:Field Watching

### 樹木・四季彩景観



D: 桜開花 (3/25)



G: 榎・夏彩 (7/25)



E: 桜満開(4/5)



H: 榎・秋彩 (11/20)



F: 桜枯木 (11/25)



I: 榎・冬彩 (1/6)

Photo of Y. Iwasaki

D・E・F: 染井吉野(馬走/清水)

G・H・I: 静岡県美術館通り/静岡駿河)

- 第3344(5/30):未だ早い、コロナ避けて、趣活へ  
第3350(6/6):梅雨入りし、小雨降る中、鶯や  
第3357(6/13):梅雨の間に、ピーチュルと鳴く、雲雀かな  
第3397(7/4):日が暮れ時、輝の乱舞、蛍かな  
第3403(7/11)梅雨の間に、ひらひらと舞う、クロアゲハ

## 2020年-夏

- 第 3407(7/18):長梅雨と、コロナ感染、何時明ける？  
第3414(7/25):せど裏に、梅雨明け近し、蝉の鳴き  
第3420(8/1):長梅雨も、漸く明けて、夏の空  
第3421(8/2):梅雨明けて、シャンシャン響く、蝉時雨  
第3423(8/3):猛暑入り、熱中コロナ、引き籠もる  
第3424(8/4):アルプスの、自然水甘、蘇る(熱中S)  
第3434(8/13):コロナ禍、長期間の、医寮技士(ワクチン研究)  
第3435(8/15):蝉時雨、クマゼミから、アブラゼミ(早朝、背戸裏山)  
第3437(8/17):陽が暮れて、蝉時雨止み、虫の鳴き  
第3438(8/18):蝉時雨、クマとアブラの、競い鳴き  
第3442(8/25):日が暮れて、リンリン鳴く、スズムシや  
第3445(8/28):久々の、家庭菜園、恵雨  
第3448(8/31):引き籠もり、残暑厳しく、室の風(熱中S)  
第3449(8/31):日没から、スズムシの鳴き、秋を呼ぶ

## 2020-秋

- 第 3 4 5 4 (9/5) :日没後、キリキリと鳴く、興柶種  
第 3 4 5 6 (9/7) :昼猛暑、夜には虫の、鳴き競い  
第 3 4 5 9 (9/10) :朝夕の、風の涼しさ、秋の入り  
第 3 4 6 0 (9/11) :クツワムシ、ガチャガチャと鳴く、秋の詩  
第 3 4 6 1 (9/12) :キジバトが、デデッポッポオ、鳴き騒ぐ  
第 3 4 6 2 (9/18) :日暮れ時、チュンチュンと鳴く、雀かな  
第 3 4 6 3 (9/18) :せど裏で、桜の枯れ葉、風に舞う  
第 3 4 6 4 (9/19) :コロナ禍に、空悠に舞う、赤トンボ  
第 3 4 6 7 (9/22) :朝夕に、せど裏山で、秋の風  
第 3 4 6 8 (9/22) :夕散歩、せど裏山に、彼岸花  
第 3 4 7 0 (9/24) :温暖化、今の日本は、熱帯区

- 第3471 (9/28) : 秋晴れや、富士の高嶺に、初冠雪  
 第3474 (10/1) : 中秋夜、空を見上げて、月を撮る  
 第3475 (10/5) : せど裏の、紅葉枯れ葉、風に舞う  
 第3476 (10/5) : 温暖化、鮭と秋刀魚は、何処へ行く？  
 第3477 (10/5) : 絶滅種、鰻や鮪は、何処へ行く？  
 第3478 (10/6) : 昼散歩、天高く舞う、トビー羽  
 第3484 (10/12) : 何時の間に、せど裏山は、秋の彩  
 第3488 (10/16) : アキアカネ、郷の枝先、一休み  
 第3489 (10/17) : せど裏に、ススキの白穂が、風踊る  
 第3490 (10/18) : 天高し、海谷深氏、駿河湾  
 第3491 (10/19) : 黒潮の、流路離接が、漁左右  
 第3492 (10/19) : サクラエビ、駿河特産、何処にいる？  
 第3493 (10/19) : 秋半ば、下り鰹の、叩き刺し  
 第3494 (10/19) : 秋半ば、下り鰹の、叩き刺し  
 第3495 (10/19) : 食べたい、鰹と鮪、何時までも  
 第3496 (10/21) : 赤トンボ、明日はどこへ、向かうかな  
 第3497 (10/22) : 秋の風、吉野の桜の、枯れ葉舞う  
 第3498 (10/24) : 青空に、鷺の飛び立ち、数羽あり  
 第3499 (10/24) : 秋桜の、白赤の花、風に揺れ  
 第3500 (10/27) : 清流に、淡水種立ち、棲み処あり

## 参考資料

- 1) 自然観察ハンドブック(2009):財団法人・日本自然保護協会
  - 2) 野鳥小図鑑(1987):東海大学出版会
  - 3) 日本の淡水魚(2000):図書印刷株式会社、学習研究社
  - 4) 四季のことば辞典(2008):(株)東京堂出版・西谷裕子著
  - 5) 里山図鑑(2009):(株)ポプラ社・おくやままさし著
  - 6) 樹木図鑑(2005):(株)日本文芸社、鈴木廉夫著
- 
- 7) 特別号外:Field Watching (II) 富士山と自然観察記録、岩崎行伸著
  - 8) 特別号外:Field Watching (IV)生きものたちと自然観察記録、岩崎行伸著
  - 9) 富士山と自然観察記録(俳句集-I) 2021:海鳴54号、岩崎行伸著
  - 10) 富士山と自然観察記録(俳句集-II) 2021:海鳴55号、岩崎行伸著

**\*いわさきゆきのぶ NPO法人自然観察塾(塾長)、水棲&環境研究会**